



「みまたん宅食どうぞ便」と「江戸川区おうち食堂」から学ぶ  
**定期的なアウトリーチ型事業で  
”非専門職” のメンバーが担う  
重要な役割とは**

第2回全国こども宅食サミット  
全国先進事例に学ぶ、食支援×アウトリーチの最前線 ①



こども宅食応援団



どうぞの精神が根づく町。  
三股町。

どうぞがつながる。  
明日につながる。  
みまたん宅食どうぞ便。

# 登壇者の紹介



みまたん宅食どうぞ便事  
務局  
松崎 亮 さん



みまたん宅食どうぞ便相  
談員  
内窪 弘子 さん

誰もが互いに支え合ひ みんなで子育て



## NPO法人バディチーム

- 子育て支援と虐待防止を目的に2007年に設立
- 様々な事情により子育てに困難を抱える家庭に「子育てパートナー」が訪問し、保育、家事、学習支援など親子に寄り添う＜家庭訪問型＞の支援活動を行う

# 登壇者の紹介



NPO法人バディチーム  
代表  
岡田 妙子 さん



NPO法人バディチーム  
おうち食堂事業担当  
小川 るみ さん

# ゲスト登壇者

江戸川区子ども家庭部  
相談課 課長  
田島勉 さん



# 令和2年4月1日より江戸川区児童相談所が開設

## 所在地:

所在地 江戸川区中央三丁目4番18号

敷地面積 2, 285. 97m<sup>2</sup>

建物規模 地上4階建

(一時保護所併設:定員35人)

延床面積 4, 525. 10m<sup>2</sup>程度

## 職員配置:

160人

(所長／児童福祉司／児童心理司／保健師／

弁護士／警察官

【一時保護所】保育士／児童指導員／看護師)



# 事業の概要

## 団体概要

民間団体だが、いずれの団体も普段から行政と連携して事業を行う。

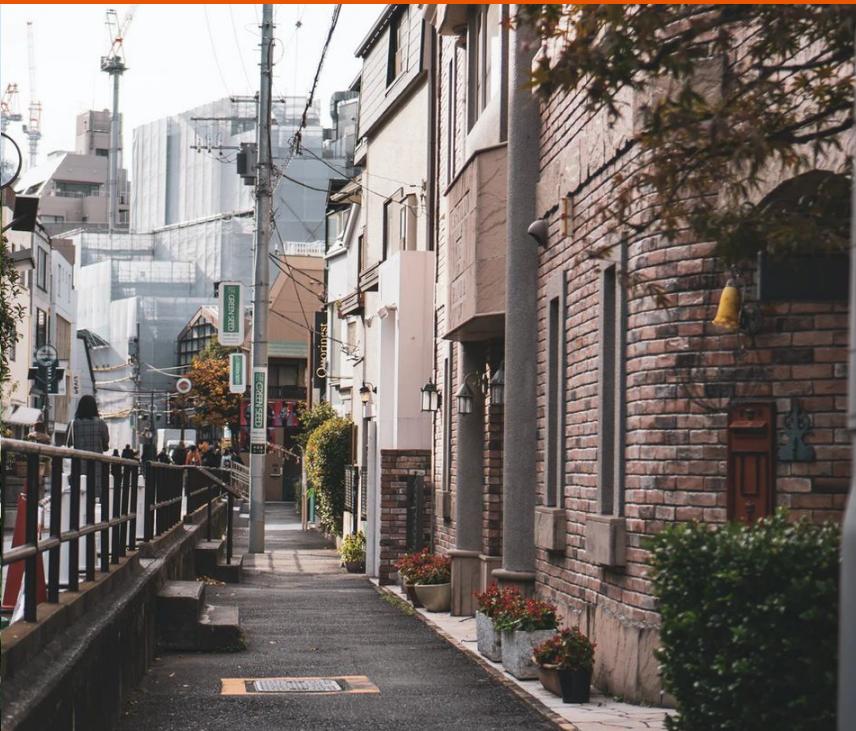
社会福祉法人 三股町社会福祉協議会		NPO法人 バディチーム
団体規模 (年間活動費)	22,000万円	7,000万円
スタッフ数	職員81名	<ul style="list-style-type: none"><li>事務局18名</li><li>現場支援者 登録150名</li></ul>
主な活動	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域福祉推進事業</li><li>・各種基幹相談窓口</li><li>・民生委員等団体事務</li><li>・介護保険事業 など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・養育支援訪問事業</li><li>・里親家庭支援</li><li>・食の支援事業 など</li></ul>

それぞれの団体の活動地域は「地方」と「都市部」

宮崎県 三股町  
(2.5万人)



都内の14区  
(里親支援は都内全域)



## 事業概要

支援世帯数は同規模で、訪問型という点も共通。食支援の手法が異なる。

	みまたん宅食どうぞ便	江戸川区 おうち食堂
家庭数	約70世帯	約50世帯
訪問員	一般の方、民生委員など ボランティア 30人 (資格不問)	子育て、ファミサポ経験者など ボランティア70人 (資格不問)
食支援	レシピ付き食材の宅配 (世帯人員の10食分)	買い物・調理支援 (買い物から調理、片付けまで)
頻度	月1回 (利用期間は家庭による)	週1-2回 (原則上限年間48回)

## 「レシピ付き食材の宅配」

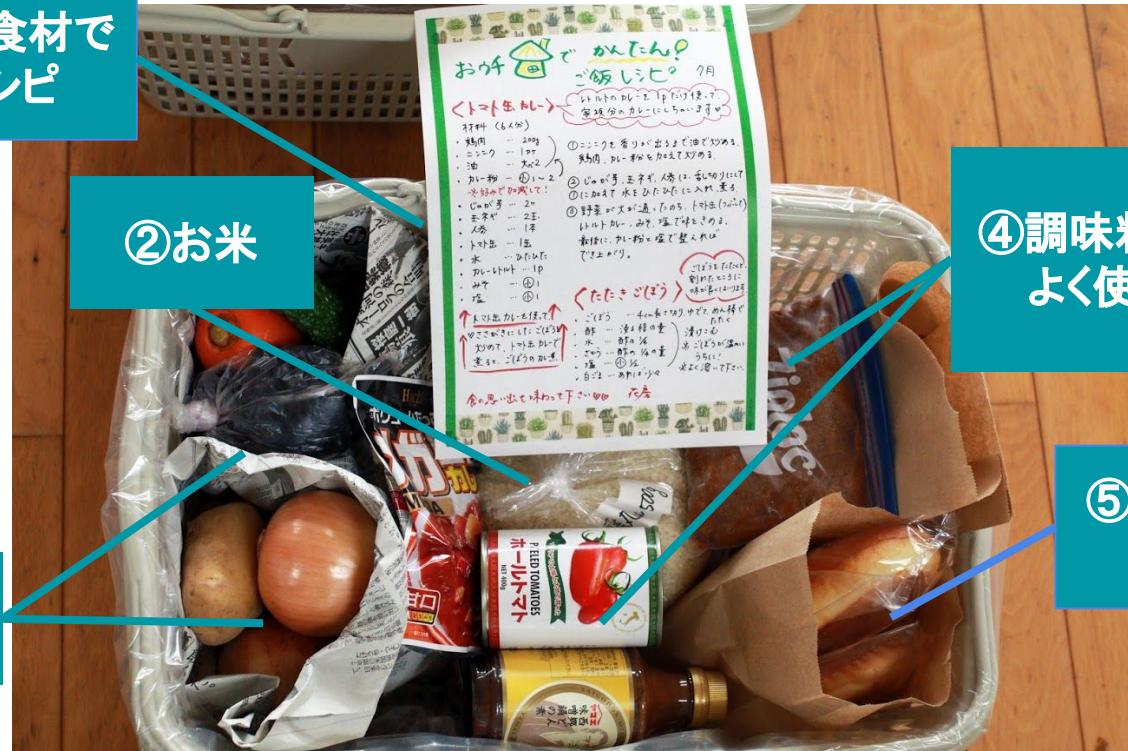
①その日の食材で作れるレシピ

②お米

③野菜

④調味料・缶詰などよく使う保存食

⑤すぐ食べられる惣菜パン等



# 事業のイメージ: みまたん宅食どうぞ便

## ① 寄付食品 集め



## ② 仕分け、梱包作業



# 事業のイメージ: みまたん宅食どうぞ便

## ③ 家庭への配送準備



## ④ 食材の手渡し



## 買い物・調理支援



2018/03/15

ビーフシチュー  
きゅうりのごま  
あえ  
フランクフルトと  
ハムのサラダ

2018/03/06

揚げめかじきクリ  
ームソースがけ  
ペンネパスタ  
きやべつきゅうり  
サラダ

肉団子  
ポテトサラダ

レンコンきんぴら  
鶏肉照り焼き

# 事業のイメージ: 江戸川区おうち食堂

## ① 食材の買い出し



## ② 家庭訪問＆調理



## ③ あと片付け



## 「ご飯を作ってあげる」だけじゃないサポート

例えば、

- 献立が思いつかない
- 子どもへの食育
- 煮物を作ったことがない
- 離乳食を進める



# 利用家庭と事業の体制

いずれの事業も利用要件は具体的に記載せず、相談員や行政にて面談等を実施して対象を判断する。

利用家庭の  
募集文言

支援の  
必要性

みまたん宅食どうぞ便

江戸川区 おうち食堂

三股町にお住いの18歳以下の  
お子様のいる家庭で  
「生活が大変...」と感じる家庭

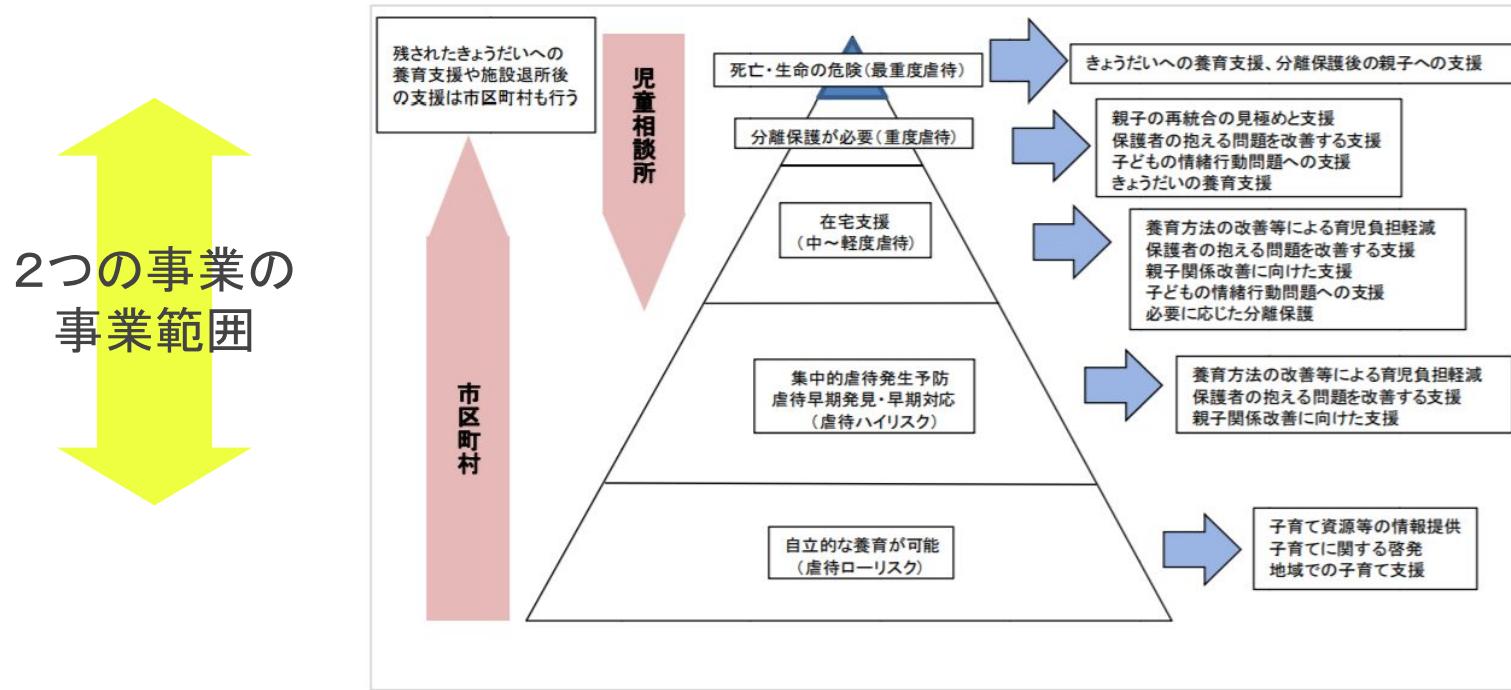
食の支援が必要な家庭

社協の相談員による居宅訪問(事業趣旨  
説明+ヒアリング)を行い総合的に判断

保護者の就労問題、保護者の疾患  
問題、保護者の養育能力問題などの  
課題があり、区の児童相談所の面談  
などにより判断

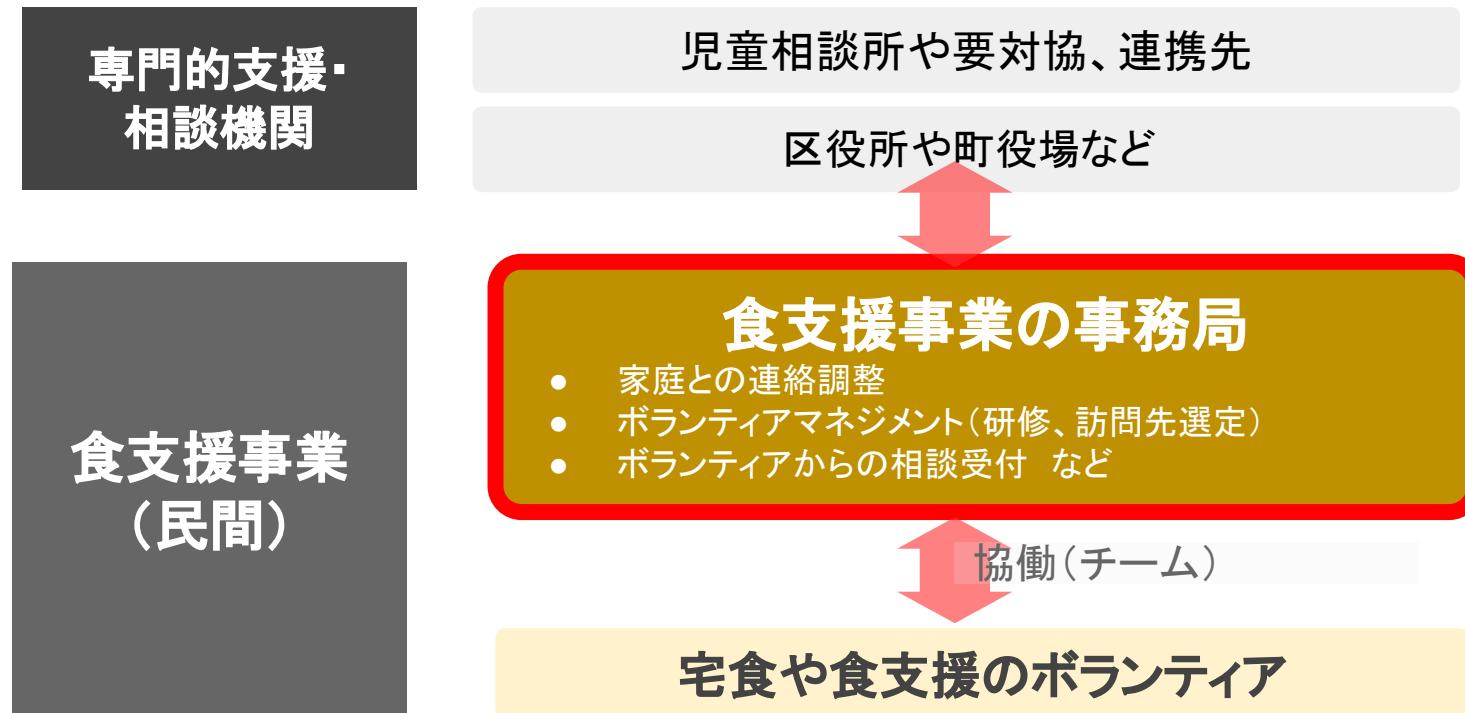
# いずれの事業も「気になる」レベルの家庭から虐待群まで広く対応を想定

図 1：虐待の重症度等と対応内容及び児童相談所と市区町村の役割



## 事業の実施体制（詳細は本資料最後のAppendixへ）

共通点は、①行政・関係機関 ②食支援事業の事務局 ③ボランティア  
という「3者連携」の体制





# 家庭との関係構築と見守り

## 質問 1

事業の「役割」は何だと思いますか？  
利用家庭にどんな変化がでていますか？

# ある家庭の事例

行政情報だけでは把握できない困窮

相談・支援に反対する家族がいる

- 庭付きの家、自家用車など、外からは困窮の問題は無さ  
そうな家庭。
- 多額のローンを契約、毎月の返済が高額であり、外出、  
食費や子供の衣類等を節約。
- 生活費の不足をカードで埋める生活だが、夫は「**共働き**  
のだから何とかなる」と妻の不安を聞き入れない。妻から  
こども宅食に相談あり。

# 家庭の変化

「毎回、いろいろな食品が入っていて助かる…」

「配送員さんは家の事情に踏み込みます、明るく声掛けしてくれていてありがたいな」



「多重債務のことを人に言えなかつたけれど、非難せず聞いてくれるどうぞ便の相談員さんになら話しやすい」

「家計管理は不要だと反対する夫も、どうぞ便の社協なら話を聞いてもいい、と少しずつ思えてきたかも…返済を何とかしたいな」

半年後  
家計相談へ



- 最初の家庭訪問時には、「申し込みをしたということは、現状を変えようと一步踏み出した証拠、とても良かった」という点を親本人とも共有。
- LINEや電話でも定期的に声掛けや、手当などの必要な情報を届ける。

緩やかにつながっていることを感じてもらえれば😊





- 同じメンバーが毎回訪問し、明るく挨拶。
- エレベーターが無い建物などは、10キロ近い食材カゴを階段で運ぶ。
- 「困っていることがあれば社協に相談してください」と声をかける。
- 顔を合わせるうちに「子どもの制服が買えない」、「職場の人間関係に悩んでいて...」といった相談や吐露があることも。
- 利用者からは、「ボランティアの方がとても気にかけてくれます。困ったことがあれば言える、そういう人が近くに一人いるだけでも全然違う」

## 訪問型の子育て支援・家庭支援 家庭に入ることの役割

### 孤立を防ぐ

- 話相手、相談相手
- 信頼関係を築く

### 具体的な支援

食事作り、食材の購入、後片付け、献立を考える、離乳食調理、アレンジレシピなど

### 家事や子育てのモデルとなる

例) 支援員と一緒に調理

### 状況を確認して次につなげる

- 子どもは食が細いのかと思っていたけど、おうち食堂の日は驚くほどよく食べる。
- おうち食堂が唯一つながっているご家庭の支援員さんの一言。「ホッとする時間って大切。**支援員が入る時間だけでもボ一っとしてくれればそれで充分**」
- 週に1回でもおうち食堂が来てくれるって思うと、その日まで何とか頑張ろうと思える。



- 味見は必ず親御さんにしてもらいます。「美味しい？」「美味しい！」その瞬間、心が通じ合ったような気がします。
- 子どもに対して怒鳴ってばかりだったが、**支援員さんの言葉**がけを聞いて「そう言えばいいのか！」と思った。
- 親御さんは、色んなことが不安でただ自信がないだけ。「大丈夫。私もそうだったよ」と伝えるとだんだんやってみようかなと思ってもらえる。

事業の役割は、家計負担軽減や食に関する養育スキル向上などの直接支援以外に、さらに3つある：

状況把握

安心感・  
信頼の形成

課題に対面する  
心の準備

## 状況把握

定期的な接点を持つため、多くの情報を得やすくなる。親や子どもの**気になる様子**や、家庭の変化、状況悪化の予兆などを**把握**できる。

## 安心感・ 信頼の形成

利用家庭に、自分達の状況を否定せず**受け止めてもらえた安心感**が芽生える。

「自分を応援してくれる人達がいる」という実感やちょっととした話ができる相手の存在により、**孤独感が軽減**する。

## 課題に**対面**する 心の準備

「できていること、良くなったことに着目したフィードバック」や「小さくても何か**困りごとを一緒に解決した経験**」などの積み重ねにより、親・家庭の**求援力・受援力を徐々に伸ばす**。

## 求援力

支援を求めるサインやシグナルを表出する力

## 受援力

人からの支援を受け入れる力



# 1つ1つの活動の効果の積み重ねにより、家庭が必要な支援につながる

## 事業(活動)の効果

直接的な負担軽減(食支援)

状況把握

安心感・信頼の形成

課題に対面する心の準備

専門的支援

## 事例の場合の変遷

「毎回、いろいろな食品が入っていて助かる…」

「配送員さんは家の事情に踏み込まず、明るく声掛けしてくれていてありがたいな」

「多重債務のことを人に言えなかったけれど、責めずに聞いてくれるどうぞ便の相談員さんになら話しやすい」

「家計管理は不要だと反対する夫も、どうぞ便の社協なら話を聞いてもいい、と少しずつ思えてきたかも…返済を何とかしたいな」

家計相談



# 登壇者による ディスカッション

## 質問2

# 訪問員にはどんな人が向いているか？

- 訪問員は**どんな人**が向いていますか？
- **研修**はありますか？『**これだけは気をつけて下さい**』と**注意喚起**していることはありますか？
- 家庭とボランティアのマッチングはしていますか？

## 訪問型の子育て支援・家庭支援 求められる人(例)

- 気持ちにゆとりのある方
- **自分の価値観を押し付けず、どんな人にも偏見なく接することができる方**
- どんなご家庭でも、**その家庭の状況をありのままに受け止められる方**
- 調理に自信がなくても、一生懸命できチャレンジしたいという方
- 現場力のある方(臨機応変に対応できる)
- **傾聴・受容・共感ができる方**



## 宅食ボランティアに向いている人の特徴

- 明るい表情であいさつができる人
- 受容・傾聴ができる人
- 相談支援というより、寄り添った関わりのできる人
- 結論を急いだりせずに、長いスパンで関われる人
- 曖昧な情報提供をしない人
- 地域活動を主体的に楽しめる人

- 利用者アンケートの声:  
(ひとり親世帯が対象の事業で)「ボランティアが**離婚の理由を質問してきて、驚いたし嫌な気持ちになった**」
- 定期的に家庭訪問しているうちに親しくなり、利用家庭(親)から、「**どうしても払わないといけない費用があり、内緒でお金を貸してほしい…**」と頼まれ、断つたら非難された。
- ある地域の食料支援に勇気を出して行ったら、「**貧困で可哀想な家庭を支援している**」と言われて二度と行きたくなかった。

# 登壇者による ディスカッション

▼関西地方のこども宅食の事例（三股町社協が事業立ち上げサポート）：

## 社協からボランティアに伝えている留意事項

### ★寄り添う支援をお願いします。

配達時には、担当していただくご家庭の保護者の方やお子さんと、コミュニケーションをとっていただければと思いますが、絶対にこれを聞かなければいけない、という決まりごとはありません。**困りごとや悩みごとを無理に聞き出すことはせず、まずは傾聴を実施して信頼関係を構築することを意識してください。**

### ★秘密保持をお願いします。

周囲に困りごとを知られたくない、サービスを利用していることを知られたくないなど、〇〇宅食を希望されているご家庭の思いは様々です。それぞれの**ご家庭との信頼関係を築いていくために、配達する中で得たご家庭の情報などについては、秘密を厳守してくださるようにお願いします。**

# バイスティックの7原則

対人援助技術における信頼関係をつくるために必要な姿勢 (※[参考図書](#))

	原則	利用者のニーズ(思いや欲求)
1	<b>個別化</b>	他の人と一緒に扱わないので欲しい。ひとりの個人として迎えられたい。
2	<b>意図的な感情表現</b>	感情はありのままに表現したい。
3	<b>統制された情緒的関与</b>	自分の気持ちに共感して欲しい。
4	<b>受容</b>	ありのままの自分を受け入れて欲しい。
5	<b>非審判的态度</b>	責められたり、一方的に非難されたくない。
6	<b>自己決定</b>	問題解決や自分の行動は自分で決めたい。
7	<b>秘密保持</b>	相談した内容は他人に知られたくない

# まとめ(2つの事業の共通点)

訪問ボランティアに  
求める素養

個人間トラブルの  
未然防止

- 偏見がない、価値観を押し付けない
- 家庭との程よい距離感を保てる
- 「**自分が家庭の問題を解決してやろう**」  
「**立て直してあげよう**」という思いが強すぎない など
- 事務局が初回面談などを実施。「ボランティアの後ろには専門人  
員がおり、チームで事業をしている」という体制が自然と伝わる。
- 事業の趣旨・**支援内容の説明**(できること・できないこと)を明確  
に

# 研修・マッチングについて

## みまたん宅食どうぞ便

### 研修内容や注意事項

相対的貧困、傾聴、守秘義務など

### 訪問ボランティアと家庭とのマッチング

#### マッチングあり

(「顔見知りはさけてほしい」といった要望や、相性、居住地などを勘案。関係が難しい家庭は相談員が宅食を実施することもある。)

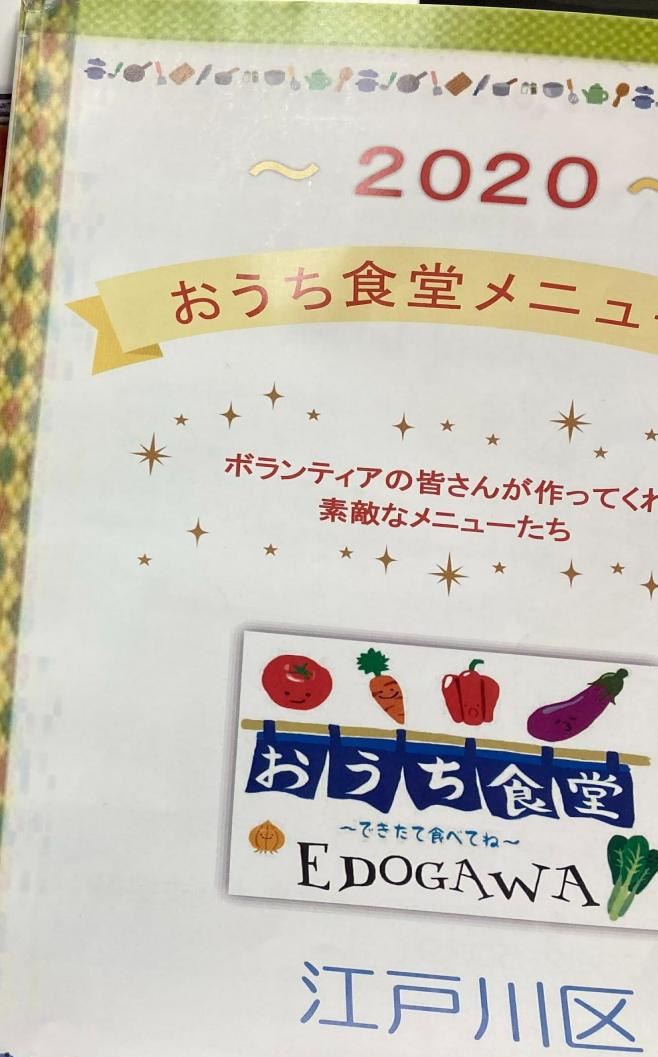
## 江戸川区おうち食堂

- 精神疾患・発達障がいへの理解、傾聴受容共感、守秘義務など
- ヒヤリハットや活動の疑問点などを定期的に共有

#### マッチングあり

(相性、居住地、家事・支援スキルなどを勘案。モニタリングの上、再調整あり)

# 実際に作ったメニュー集



### 質問3

訪問員から共有してもらっていること

## 【日報の書き方】

訪問前に買い物を済ませた場合、訪問時間前プラス30分が開始時間となります

「おうち食堂」実施報告書【日報】

利用者番号	ED ●● - ●●	利用者名	江戸川 けな子	支援員名	江戸 かわ子
日時	令和 2年 1月 1日 月曜日		16時 30分 ~ 18時 0分		
買い物	①実施時	訪問前	訪問中	②支払い方法	WAON利用 立て替え

訪問時 の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母、長男2人分を作った。</li> <li>・長男:元気なかったので、「何かあった?」と聞くと、学校で嫌なことがあったとのこと。「いやな気持ちになったんだね」と返しながら話を聞いたら、少し落ち着いたようだた。後半は自室でゲームしているが、味見を頼むと、照れた感じで「おいしい」と言ってくれた。</li> <li>・長女:肉をこねて詰める作業を手伝ってくれた。「来週は自分の誕生日だから、庵揚げがいい」とのこと。「じゃあ来週は庵揚げでお祝いしようね」と言うと、とても嬉しそうだった。</li> <li>・母は18時近くに帰宅するなり、イライラした様子で長男に宿題を促していた。</li> <li>・リビングは物が多く、散らかっている。床には葉が落ちていた。</li> </ul>	
	<p>【食材レシート】</p> <p>まいばすけっと 新小岩駅前店 TEL:03-5676-6773 FAX:03-5676-6774</p> <p>領收証</p> <p>営業時間: あさ7時~22時 12時 年中無休</p> <p>14/2020 2020/4/17 18:00 17:26</p> <p>236 228 V18 ¥2557 105 103</p> <p>お買上商品数: 1</p>	
メニュー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピーマン肉詰め</li> <li>・野菜スープ</li> <li>・じゃがいもと人参のチーズ焼き</li> </ul>	

客観的に掘んだこと、気に  
なること、変化したことなど  
を記入する。

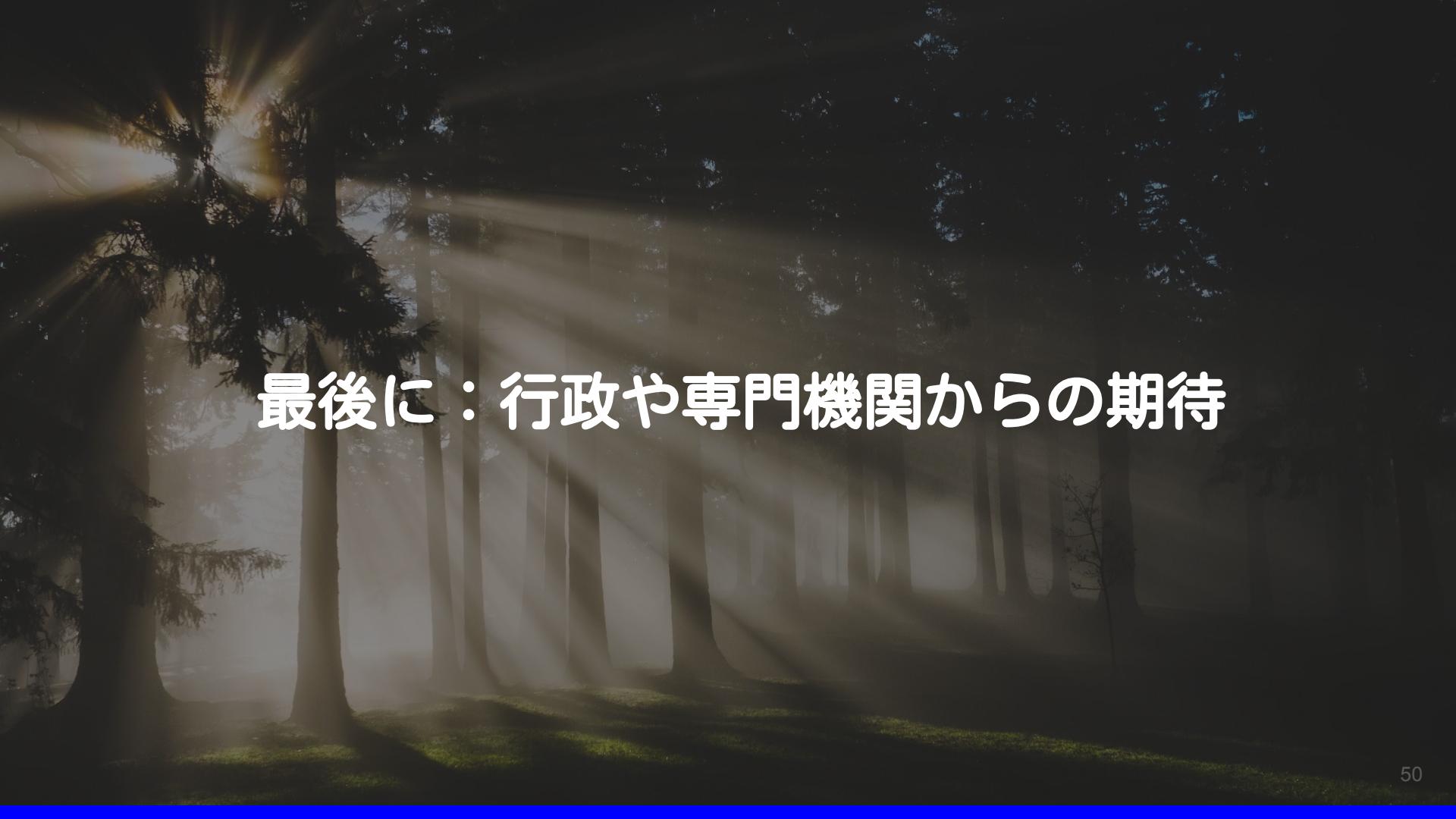


- 宅食後の社協へのカゴ返却時にボランティアと事務局が状況を共有
- 支援対象児童等見守り強化事業では訪問時チェックリストを作成



見守り強化事業(XX便) 訪問時チェックリスト

訪問日 令和 年 月 日	
利用者名 ( )	訪問者 ( )
項目	チェック内容
お届け状況	自宅で手渡し
	事務所で手渡し
住まいの状況	きれい
	ふつう
	散らかっている
子どもの状況	不自然な怪我やアザ
	体調不良 (病気の治療中)
	表情が乏しい
	極端に無口
	大人の顔色を窺っている
	親への近づき方、距離感が不自然
	服装、身だしなみ (不衛生な状況)
保護者の状況	体調不良 (病気の治療中)
	表情が乏しい
	極端に無口
	感情や態度が変化しやすい
	余裕がないように見える
	子どもへの近づき方、距離感が不自然
自由記述	



最後に：行政や専門機関からの期待



バディチーム岡田さん：

- 課題やニーズ以外にも、たとえば**養育困難だったとしても、その家庭ならではの愛情が感じられる点や「健康的なところ・いいところ」も発見できる。**
- そうした**ボランティアの気付きは、行政も知らなかつたことが多い。非専門職・専門職が連携することで、多角的で・より深い家庭の理解に繋げられる。**

# 江戸川区が実施するおうち食堂のポイント

## ポイント1 必要な支援をコーディネートする

→ 生活実態を把握し、必要な支援をコーディネートする

## ポイント2 食をきっかけとして、家庭の状況を少しでも改善していく

→ 関りを絶やさない。関係機関との連携

## 行政の立場からどうぞ便に期待すること:

「急かさないでやる。最初から『何の課題を、いつまでに、どう解決する』という対応では信頼関係を作ることは難しい。

どうぞ便なら、何か状況が悪くなってしまう前に声を拾えるのでは、と頼りにしています」



三股町役場福祉課内村さん([2019年取材時](#))

全米で導入が進む児童虐待防止のための家庭訪問プログラム(HFA)の研究:

「既に虐待やネグレクトなどの問題が発生している場合は専門家による介入的な指導も必要。しかし、予防的な支援では親の能力を認め、親自身が自ら育っていくのを支援する方法が有効」

### 家族の強みに着目しそれを積み上げていく 支援方法(Strength Based Approach)

- ・親と家庭訪問員がパートナーシップを結ぶ
- 家庭訪問員は
  - ・親の欲求・ニーズに焦点を置く
  - ・親の能力（ストレングス）の上に積み重ねるよう支援する
  - ・家族が自分の目標に到達するのを支援する

### 専門家が問題の改善に取り組むよう指導する 方法(Deficit Based Approach)

- ・家庭訪問員が「専門家」という立場を保つ
- 家庭訪問員は
  - ・家庭内・子育ての仕方などに何が問題かに焦点を置く
  - ・家庭訪問者が問題の原因を見つけ出す
  - ・家族は問題をどのように「直さねばならない」かを「指導」される

# Appendix

# 利用家庭:みまたん宅食どうぞ便

## 利用家庭の募集文言

三股町にお住いの18歳以下の子様のいる家庭で「生活が大変..」と感じる家庭(※[Webサイト](#))

## 利用家庭の決定の運用

対象は、「要保護児童対策地域協議会において支援対象児童とされている子ども、および、自治体が  
**見守りを必要と判断した子ども**」※令和2年度は「支援対象児童等見守り強化事業」の枠組みでどうぞ便を実施

支援の必要性については、

- 自治体の役場や母子保健師を通じて手渡されたチラシ等から、本人がINE・Web・メール・電話などの方法で申込み後(※[申込みフォーム](#))、
- **社協の相談員による居宅訪問(事業趣旨説明+ヒアリング)を行い総合的に判断する。**

# 利用家庭: みまたん宅食どうぞ便

## 使える制度を知らない家庭

- 小学生の子どもと二人暮らしのシングルマザー。  
**失業し、失業保険と貯蓄を切り崩し生活** していた。
- 長期に派遣職員として就労、正職員との格差などに悩む。  
生活費や将来が不安であると「こども宅食」に申し込み。  
(=最初は単なる食料支援として申し込んだ)
- こども宅食の利用後、支援員と相談し「高等職業訓練促進給付金」制度を利用し**看護学校への進学**を選択。

## 行政情報だけでは把握できない困窮

- 庭付きの家、自家用車など、**外からは困窮の問題は無さそうな家庭**。
- 多額のローンを契約、毎月の返済が高額であり、外出、食費や子供の衣類等を節約。生活費の不足をカードで埋める生活だが、夫は「**共働きのだから何とかなる**」と妻の不安を聞き入れない。妻からこども宅食に相談あり。
- 家庭との関係性できたところで家計管理につなぐ。

## 自分の課題が把握できていない

- 母親に軽度の知的障害がある、ひとり親家庭。** 子どもが3人おり、食事の提供も含め養育が難しい状況。
- 保育所から「子どもが食べていない様子なので、様子を見に行ってほしい」とこども宅食事務局に紹介があった。
- 本人は、自分ではきちんと自活できているという認識。**
- 定期的なこども宅食の接点を通じ、家事支援や手当の手続、子どもたちを学習支援などにつないだ。

## 行政への拒否感が強い

- 妻は若く、夫は障害があり仕事をしていない。
- 児童相談所に子供が保護された経験などもあり、**行政に対する拒否感・怒りが強い**。新たに子どもが生まれた際も、保健師の訪問も拒む。
- 民間団体のこども宅食は抵抗感があまりなく、訪問を受け入れる。**こども宅食を通じ、家庭との定期的な接点を維持しながら、見守りをしている。

# 利用家庭:江戸川区おうち食堂

## 利用家庭の募集文言

食の支援が必要な家庭(申込みが必要です。詳しくはお問い合わせください。)※[Webサイト](#)

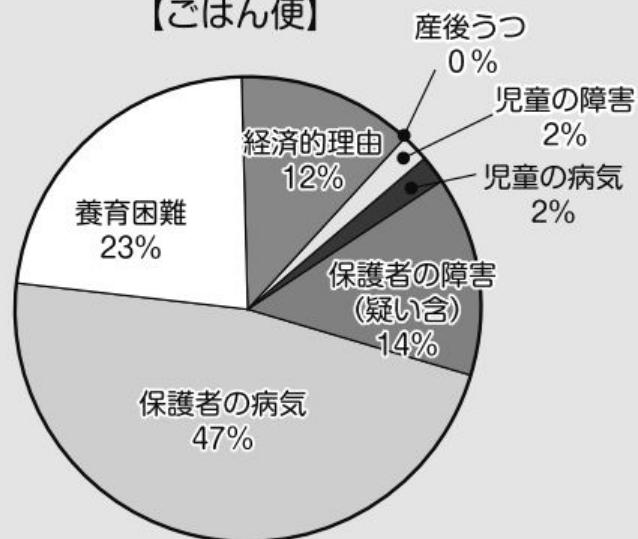
## 利用家庭の決定の運用

- 保険者の就労問題、保険者の疾患問題、保険者の養育能力問題などの課題があり、区の児童相談所の面談などにより、**食の支援・見守りが必要と判断した子ども・その家庭**。
- 保険者本人からの申込みの他、一時保護解除後の家庭に利用を勧めるなど、**児童相談所や健康サポートセンター等、区内の連携先からの紹介**経路もある。

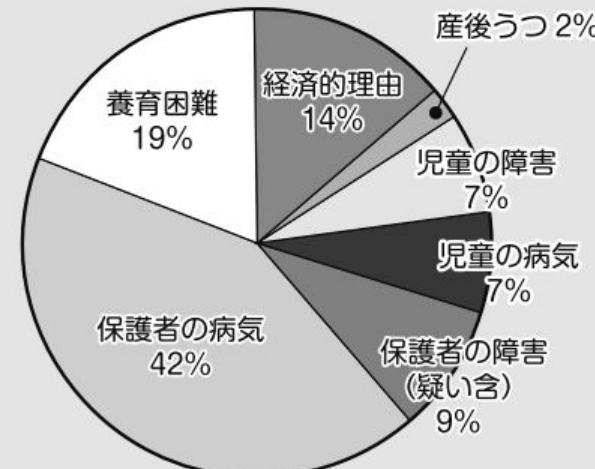
図II -5-1: 江戸川区「ごはん便」と「おうち食堂」の実施理由（世帯数）

## 支援実施理由

【ごはん便】



【おうち食堂】



# 事業の実施体制

